

麻疹（はしか） →MR ワクチン

麻疹は空気感染、飛沫感染、接触感染などの感染経路で伝染する、伝染力が非常に強い病気です。潜伏期、前駆期、発疹期の段階があります。発疹期には高熱を伴い非常につらい病気です。熱が下がった後3日間は登園、登校できません。

症状、合併症

麻疹は非常に伝染力が強く、10日ほどの潜伏期の後に前駆期として発症します。前駆期は咳、鼻汁、結膜炎などのカゼ症状、微熱が見られます。口の粘膜にできる発疹（Koplik 斑）は発疹が出る少し前からみられるようになります。微熱は1日ぐらいで下がりますが、体に発疹が出現すると高熱となり数日間続きます。中耳炎や気管支炎、肺炎も合併しやすく、非常につらい病気です。まれに脳炎を合併したり、数年してから SSPE（亜急性硬化性全脳炎）を発症する可能性があります。

予防

MR ワクチンを1歳になってすぐと、小学校に入学する前の1年間の2回接種します。突発的な流行があったときは6か月頃からワクチン接種ができます。

ワクチンを2回接種していない人が感染者と接触した場合、72時間以内にワクチンを接種すれば感染を抑え、発症しても軽減できる可能性があります。

（感染が分かる前の時点でウイルス排泄があるので家族内の発症だとワクチンは間に合わないかもしれません）また、免疫グロブリンの注射を6日以内にすれば発症の予防や軽減ができます。